ツュンベリーと 日本の植物学

育 随 想

愛知教育大学学長 正久 松田 氏

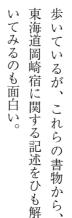
が多くあることに気付いた。 間スウェーデンに滞在する機会があ ンベリー)はスウェーデン人である。 いてある樹木や花などに「thunb. 会った。以来、公園などで学名の書 ったが、そのとき初めてこの名に出 九九七年から九九年まで、 このツュンベリーは一七四三年生 約二年

重みで垂れ下がることから「雪柳」 花」ともいい、一個の小さな花が集 という名前がついたのであろう。そ まるとまるで雪のように見え、 ヤナギ」がある。これは別名 命名)という。このThunberg(ツュ た名前といえる。この学名は れぞれ「全体」と「部分」に着目し 「Spiraea thunbergii」(シーボルトの 桜の花と前後して咲く花に 花の

学の父」とされるリンネ(スウェー デン・ウプサラ大学)の弟子にあた 「植物分類 平凡社東洋文庫で読むことができる。 『江戸参府紀行』は、 『江戸参府旅行記』、ツュンベ 『江戸参府随行記』、 健康維持のため旧東海道を

まれのスウェーデン人で、

学長(一七八五年)となっている。 の後を継いで、ウプサラ大学の教授 られたという。 まれの伊藤圭介(日本最初の理学博 の植物を西洋に紹介した。名古屋生 誌、一七八四年出版)』を著し、 国後は、『Flora Japonica(日本植物 ど植物採集に当たったとされる。 ランダ商館長付き医師として一七七 採集も兼ね、東インド会社の出島オ アフリカやアジア、特に日本の植物 士)は、シーボルトからこの書を贈 在、江戸参府(往復三か月)の折な 五年来日し、約十六か月、日本に滞 江戸時代、出島にやってきたケン ツュンベリーはリンネの依頼で 彼は、帰国後リンネ 日本





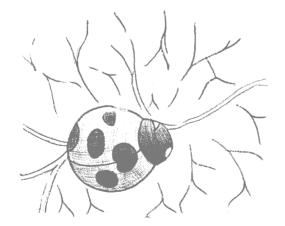
平成22年5月1日

月

発行・編集 岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想	1
爱知教育大学学	長
347	松田 正久氏
	иш ш///
この人に聞く・	2
西川流師範	
	西川寿女司氏
羅針盤	2
· · -	_
前国語科指導員	牧野 计
ふれあい	3
六ツ美中	安井 文一
特 集	
開校1年 みあい	
特別支援教育の	充実を
お知らせ	6
フォト・ヒスト	IJ- ··· 8
相撲場(昭和57	'年)



この人に聞く

千里の道も一歩から

西川流師範

氏

寿女司さん。
「着物を着て、日常とは違う自分を
いの運動量があるんですよ。」
らいの運動量があるんですよ。」
に口調で日本舞踊の魅力を語る西川
た口調で日本舞踊の魅力を語る西川

をの母親につけてもらう稽古は、 では、私を産む前日まで稽古場に でいたと言います。そんな母の でいたと言います。そんな母の でいたと言います。そんな母の でいたと言います。そんな母の でいたと言います。そんな母の

ったかと尋ねると、年ごろの思春期、反発したり、もうとても厳しいものだったそうである。

「辞めようという思いは、全くなかったですね。やっぱり何よりも踊りったですね。やっぱり何よりも踊りったですね。やっぱり何よりも踊りったですね。やっぱり何よりも踊りったですね。やっぱり何よりを踊れば、大の心を打つ舞が踊れるのだよ』と人の心を打つ舞が踊れるのだよ』とくなかが返し言っていた祖父の言葉が、今でも私の支えとなっています。」

とても勉強になっただけでなく、 りすると、「名古屋をどり」をはじめ となり、西川流の先代家元に弟子入 唄も一通り身につけ、十八歳で名取 えられたなと思いました。」 博し、会場から大きな拍手をいただ 複雑な女の心情を、全身全霊で表現 とする大きな舞台に立つようになる。 信につながりましたね。一つ山を越 きました。この踊りとの出会いが、 ずで挑みました。思いのほか好評を しました。若さゆえの怖いもの知ら 家元を相手役に、恋心と怨念という 「二十四歳のときに踊った『かさね』 踊りを脇で引き立てる鳴り物や長 特別な思いがあります。右近

上のお弟子さんを教える忙しい日々今も舞台に立ちながら、五十人以



を送る。

「五年でやっと形になるんです。頭、「五年でやっと形になるんです。頭、てに気を配りながら舞を仕上げていくのは、教える方も習う方も本当に根気が要るものです。基本を繰り返根気が要るものです。基本を繰り返れるが要るものです。 基本を繰り返れるが要るものです。 基本を繰り返れるがです。 である。

しいです。」
といです。」
となんふれて、感性を豊かにしてほら』ですね。子供たちには本物にたんばり通します。『千里の道も一歩かんばり通します。『千里の道も一歩かいの時代も、好きで続けている

をでも凛としていた。 ままの時代から江戸とのつながり ないまでいきたいと語るその姿は、 ないしていきたいと語るその姿は、 ないまが深く、芸どころとして発展してきが深く、芸どころとして発展してき

(住 所 祐金町 生年月日 昭和二十九年四月十三日 にしかわ すめじ

言葉を大切こした収収

言葉を大切にした取組を

前国語科指導員

牧野 守ってきているのを感じる。 かと」の意味がわからず、ぞうのイかと」の意味がわからず、ぞうのイかと」がと」だと がと」の意味がわからず、ぞうのイかと」の意味がわからず、ぞうが「せかせかと」登

しているように思われる。の体験が必要だが、その体験が不足いきたい。そのために言葉についていきたい。そのために言葉についているように、言葉の力をつけて

りと意識していなければならない。
が学校一年生の『おおきなかぶ』
小学校一年生の『おおきなかぶ』

障がい者との出会いにより、

A 男



バリアをなくすための心

の多くの意 ない」など 心は育って

戸惑ってしまった。 者との間にある壁を感じ、私は一瞬 きた生徒たちの言葉。生徒と障がい についての写真を見て、次々と出て 「車いすの人ってかわいそう。」 教科書に載っている障がい者福祉

での福祉やバリアフリーを生徒たち とが多かった。そこで、本当の意味 に考え、軽はずみな言葉を発するこ あった。しかし、そんなA男でさえ、 部活動でも私と接することが多く、 学級のリーダーでもあり、生徒会や の授業が好きな生徒であった。また、 心の内を正直に話してくれることも に理解させたいと考えた。 「車いすの人は大変そうだ」と短絡的

「目が見えない人って大変そう。」 六ツ美中 **安井 文**一

担任したA男は、まじめで社会科

に車いす生活を送るSさんをお招き の心を育てたいと考えた私は、 し、話をしていただいた。 実際

障がい者側の視点に立つことができ ちがあったんだと思う。僕は障がい が健常者との壁になっていますね。」 にだけ特別な待遇が多々あり、それ れたこともありましたね。障がい者 を改めて実感することとなった。 者の間にはっきりとある壁の大きさ と感想を書いた。生徒たちは新たに 者のことを全く理解していなかった_ 涙が出てきた。自分の心の中に障が ていることを知り、A男は、学習カ 者は健常者と仲間になりたいと思っ をしましたよ。また、パラグライダ いを道具のように扱われて嫌な思い 先権を友達に利用され、自分の障が た。そして同時に、健常者と障がい い者はかわいそうな人だと思う気持 ードに、「話を聞いていたら、自然と ったときに面倒だからと係員に断ら 「愛知万博の入場時に障がい者の優 .がいは個性だということ、障がい Sさんの話から、障がい者にある に挑戦しようとしたら、何か起こ

に対する心の壁をいかになくすかか は単なる言葉に過ぎない。障がい者 テーマで話し合いを行った。「心のバ アをなくすことだ」「バリアフリー リアフリーとは何なのか』という Sさんの話を受け、学級で『真の

> が大切」「ス けど、人の されている かりが充実 物や施設ば 障がい者用 ロープとか トイレとか、



り、一人一人の心を成長させたと分 男を、いや学級全体を大きく揺さぶ 見が出た。一つ一つの意見に対して えた生徒たちの表情は、充実感にあ はどこにもなかった。話し合いを終 単純にとらえていた以前のA男の姿 には、障がい者をかわいそうな人と につながる」と考えを伝えた。そこ ることが、その人を受け入れること のものだから、その個性を受け入れ 者にある障がいは、その人の個性そ たり反応を示した。A男も「障がい 学級全員がうなずいたり、つぶやい ふれていた。Sさんとの出会いがA

きたい。 その壁をなくせるかどうかは、 には大きく深い心の壁が存在する。 人の豊かな心にかかっている。 今日も教室でそんな心を育ててい 健常者と障がい者。この両者の間 一人

> こしょ、どっこいしょ」のかけ声が それに合わせ、挿絵からうかがわれ して学ばせたい言葉をはっきりと 意されていた。教師は、 さを学ぶことができる言語活動が用 となる。この授業には、言葉の豊か よ」と教師が子供たちに確認する。 響く。教師は、かぶのしかけを大き 入れる。教室内に、全員の「うんと ループが一斉にかぶを抜こうと力を る。グループごとに演じた後、 くる。教師の確かな教材研究が見え さな生き物の力も大切だと伝わって ことも子供たちは意識している。 来る人や生き物が小さくなっていく る「とてつもない」大きさのかぶの が増えていく様子を演じ、教師は、 だった。子供たちは、どんどん人数 っとぬけましたとはこういうことだ く動かす。そして、かぶが抜けた。 しかけを動かす。だんだん手伝いに 「やったあ」という歓声と拍手。「や 言葉はこうした体験を通して語彙 授業は、最後のかぶが抜ける場面 動作化を通 全グ 小

る体験を充実させていきたい。 ある。言葉を学んだり、 の言語環境の第一は、日々の授業で させることを意識したい。子供たち ため、わたしたちは言語環境を充実 今の子供たちに言葉の力をつける 使ったりす

識し、授業に取り組んでいた。



「みあいフェスタ」での和太鼓の発表(みあい養護学校)

別支援教育の大きな課題といえるだろう。 童生徒が利用し、専門家からの具体的なアド と)を、多くの小中学校の教員・保護者・児 援を必要とする子供たちの教育に生かすこ 指導のノウハウや施設・設備や教材・教具 の役割である「センター的機能」(専門的な るものとなるよう、 を目指したものである。現在、より活用でき 個々の児童生徒により良い支援ができること ことが定められた。保護者の理解を得ながら、 る児童生徒の「個別の指導計画」を作成する 「みあい養護学校」のような「特別支援学校」 適正な就学」を保障することが、 市内の小中学校では、特別支援教育を受け 地域の小中高等学校に在籍する特別な支 整備が進められている。 児童生徒一人一人の

な教育を行うことが規定された。 等を含む障がいのある児童生徒に対して適切 だけでなく、学習障害・注意欠陥多動性障害 十九年に施行された。この法律では 「学校教育法の一部を改正する法律」が平成 の名称が「特別支援学級」に変更される 「特殊学

部では、社会自立に向けての基礎力を養うこ 的障害養護学校として開設された。小学部で 動にも積極的に取り組んでいる。 員として生きていく力を養うために、 している。卒業後、 は、基本的生活習慣を身につけること、中学 通学時間の短縮を図るため、県内十校目の知 崎市及び額田郡幸田町に在住する児童生徒の 消による適正規模の確保と、西三河地区の岡 の一つである「愛知県立みあい養護学校 て一年が経つ。県立安城養護学校の過大化解 (以下、「みあい養護学校」とする) が開校し その法律によるところの「特別支援学校 高等部では、社会自立と職業自立を目指 地域にねざして社会の一 交流活

児童生徒 数

(平成二十二年四月現在)

間を育てます。 や社会の一員として生活できる人 な人間性を育てるとともに、 く生きるための健康や体力、 に応じた教育を推進し、たくまし 児童生徒一人一人の能力や特性 家庭 豊か

主な年間 行 事

1学期 ・遠足

修学旅行 野外活動

2学期

野外活動 みあいフェスタ 中2

3学期

みあいピック 宿泊学習

(高2) (小5)

部	児童生徒数			
	岡崎市	幸田町	その他	計
小学部	44	8	0	52
中学部	40	2	0	42
高等部	83	7	1	91
総 計	167	17	1	185

みあい養護学校紹介

教育目標

教育相談会

(毎週金曜日・

十五時三十分~

みあい養護学校のセンター 的機 能

市内小中学校での巡回訪問指導と事例検討会 《巡回訪問指導校》 》昨年度

緑丘小学校とのレクリエーション交流

養護学校小学部一~四年生が、緑丘小の

年

各学校との交流

藤川小・竜谷小・美川中

・竜海中

生とグループを作り、

ゲームを楽しんだ。

いや協力体制をとっていくことの と)を見据えた保護者との話し合 将来(社会に出ていったときのこ 検査の必要性を感じた。また、



(竜谷小)

大切さを教えていただけた。

《事例検討会》昨年度

くてはならないと感じた。

(美川中)

竜南中学校とのレクリエーション交流

竜南中三年の総合学習の一環として、

福祉グ

よる心のダメージが強いという言葉が印象的だっ

自閉

症

アスペルガー症候群の生徒は、叱責に

た。叱らなくてすむよう緻密な支援をしていかな

常磐南小・梅園小・ 六ツ美北部小

て、

養護学校中学部二年の生徒たちと楽しんだ。

自分たちでゲームを考えてき

ループの生徒が、

を受けた。態度や表情を観察しながら対応を判断 など、多くの助言をいただけた。 褒めること、家庭との直接連絡を大切にすること すること、よく説明をして取り組ませ、 友人関係でトラブルの多い生徒についてご指導 (常磐南小) できたら

ワークショップ(二〇一〇年八月開催予定) 員などに教育相談を行う。 障がいのある児童生徒、 事前に電話で申し込 保護者や関係者、 教

みが必要。

指導法などを展示・紹介する予定。

みあい養護学校の教員が、自作の教材・教具

手作りの輪投げ(みあい養護学校)

私たちの考えたゲームを楽しそ うにやってくれました。人と同じ ようにできなくても、時間をかけ たり、少し手伝ってあげたりすれ ばできることがあります。周りの 人が差別や偏見というバリアを持 たずに接していくことが大切だと 感じました。 (竜南中3年)



みあい養護からのお礼のカ



▲ グループでのゲーム(みあい養護学校)

刺しゅう班でお店をやりました。会計係 で、「いらっしゃいませ」と「いかがです か」を言いました。そして、お客さんが商 品を置いて、それを袋に入れて、お釣りを 渡しました。お客さんがいっぱい来ました。 最後は全員で、「バンザイ」をしました。



▲ みあいフェスタで販売する薪を作る高等部の生徒

みあいフェスタ

業学習で製作した物の販売を行った。 地域の方々を招いて、学習成果の発表 や

作

(青年の家職員

地域との交流

- 愛知県立農業大学校の畑を使っての野菜作り
- 地元農遊会の方々との柿狩り
- 青年の家での清掃活動(三月四日・十六日)

も互いにかかわっていけるといいと思っています。 ました。個人差はありましたが、真剣にやってく らいました。二日目は、食堂の床を磨いてもらい んや毛布のごみを確認してたたみ直したりしても ました。ベッドの下まで掃除機をかけたり、 県の施設が集まっている地域なので、これから 一日目は、 床がぴかぴかになりました。 宿泊施設の部屋の掃除をしてもら ふと



教科書採択

○教科書改訂予定

予定である。 次のような日程で採択が進む る。これに併せて教科書が、 は二十四年度に全面実施され 校では二十三年度、中学校で た新しい学習指導要領が小学 平成十九年度末に告示され

小学校教科書 採択……平成二十二年度

中学校教科書 採択……平成二十三年度 使用開始…平成二十四年度 使用開始…平成二十三年度

展示期日

○教科書展示会の開催

県内二十一か所の教科書セン 理解や関心を深めるために、 ともに県民の教科書に対する ターで展示会を開催する。 採択の調査研究に役立てると 県教育委員会では、教科書 障がいのある児童生徒の

ための教科書や一般図書につ

展示会場には投書箱が用意さ は岡崎市中央図書館にある。 いては愛知県総合教育センタ れており、教科書に対する意 ーで展示する。 岡崎地区の教科書センター

見や要望を投書できる。 展示会場(岡崎教科書セン

岡崎市康生通西四—七十一 岡崎市中央図書館

平成二十二年六月十 ※休館日を除く (金) ~七月五日 月

検定済みの教科書

展示教科書

○本年度使用の教科書 教科書は通常四年に一度採

せ、 習指導要領の改訂時期に合わ 択替えが行われている。 今回の教科書は通常より 新学

校図書館の運営に理解のある

の知識と経験のある者で、学 を有する者、もしくは同程度 である。 度から使われる小学校用教科 にあたる。採択替えは来年度 書の採択替えが行われる。ま れた。本年度は平成二十三年 成十七年度に採択替えが行わ は平成十六年度、中学校は平 長く使用されている。小学校 た、中学校は本年度検定の年

る。なお、移行措置期間対応 科書と同一のものを使用す 科で使用する。 の補助教材を算数・数学、理 に、これまで使用している教 二十二年度は小中学校とも

学校図書館支援員活用事業

推進計画」を受け、学校図書 事業を開始した。 度より学校図書館支援員活用 的なものにするために、本年 せ、子どもたちにとって魅力 ンターとしての機能を充実さ れた「岡崎市子ども読書活動 館を、読書センター、情報セ 事業の内容〉 平成二十一年四月に策定さ

日

援員」として配置する。そし 館主任と連携し、 地域の人材を「学校図書館支 活動を行う。 て、各学校の司書教諭や図書 次のような

蔵書及び蔵書情報の整理 図書の貸し出し及び図書館

読書相談や学習資料 示、読み聞かせなど 0 提

助者や理科授業補助者と同様 学校に勤務し任務にあたる。 に、一日四時間、週に三日間 ・その他、司書教諭等の補助 現在配置されている教員補

待する。 置された学校の創意と工夫に 今年度の成果をもとに、 市

鈴木

純子

(連尺小)

の利用指導

図書管理のデータベース化 図書の選定に関する助 推進に関する支援

本年度は、特に強い希望の

識の向上が図られることを期 する環境のさらなる整備と意 より、子どもたちの読書に関

を願う事業である。 豊かな人間形成に資すること 内のすべての小中学校への配 置を推進し、子どもたちの心

司書または司書教諭の資格

平成二十二年度校長会役員

(小中学校長会役員)

副会長 会 会計監査 長 野勢 三浦みどり 大岡 酒井 野々山宏司 久芳 久男 明 (小豆坂小 (東海中) (羽根小) (城北中) (六名小 (竜海中

会計補佐 庶務補佐 庶 計 務 板倉 高橋 登 (竜美丘小 (六ツ美北中) (竜南中) (上地小) (三島小 (額田中

評議員 小栁 野々山周次郎 山中三江子 好直 (恵田小) (男川小 (美合小

鈴木 (常磐南小 (岡崎小

深見

俊幸

(夏山小)

あった十校に配置された。配

三浦 小倉 倫夫 敏幸 (常磐東小 (六ツ美西部小

権田 一瓶 (梅園小)

(新香山中

(美川中)

(矢作北中

尊夫 (六ツ美中) (岩津中) (矢作中)

会 長 三浦みどり (小学校長会)

会計監査 副会長 務 山中三江子 深見 大岡 久芳 眞好 俊幸 (上地小) (夏山小) (羽根小) (六名小) (梅園小) (美合小)

会計補佐 計 市川 二瓶 松男 (秦梨小)

会計監査 久男 (城北中) (竜南中)

会計補佐 〈専門委員会委員長〉 計 稲吉 守彦 (美川中) (岩津中

浩二 直也 (常磐中) (岡崎小)

理 法

制

坂井

節

(東海中)

給

与 財

山本 伊藤

小嶋

利之 義和 (福岡中) **葵** 中 教育史要Ⅵ編集委員会 環境教育研究委員会

(竜南中) 北 中

保

稲垣 高橋

幸

進 文

内田

研

鏡

(その他の関係委員会等) 岡崎市就学指導委員会

(甲山中) (河合中) (秦梨小)

岡崎市いじめ・ 協議会

平成二十二年度特別委員会

会を置き、岡崎市の教育活動 の充実・発展を図る。 一十二年度は以下の十六委員 特別委員会を見直し、平成

月報「岡崎の教育」編集委 市民大学運営委員会

・教員の研修に関する委員会 学校環境緑化推進委員会 情報教育推進委員会

副会長

坂井

節

(東海中)

山田

(額田中)

会長

野々山宏司

(竜海中)

〈中学校長会〉

郷土読本編集委員会 行事·部活動研究委員会

英語が話せるおかざきっ子 授業改善委員会 研究委員会

学校評価委員会

子ども科学館設立委員会 総合学習センター設立委員会

外国人児童生徒教育推進委

教育免許更新特別委員会

岡崎市特別支援教育連携協

特別支援 生徒指導

食

内田 市川

幹也 松男

広

報

石川 安藤 高橋

(常磐小) (上地小)

不登校対策

教育実践―児童詩教育・か

·福岡小学校

六月十七日

·本宿小学校

十月七日

らだレッスン・読解力育成

○広幡小学校 六月十六日 水 自主

平成二十二年度研究発表校

十月七日

「自ら追究し、確かに表現

表す』活動を工夫した授業 の創造~」 できる子の育成をめざして 〜言語能力を培い、『書き

○竜谷小学校 ○奥殿小学校 深まる算数科・理科の学習 十月十三日 「『見通す』『見直す』ことで 市委嘱

の教育―説明的文章を通し 十月二十日 「確かな学力を育む奥殿小

○矢作西小学校 た重点単元学習を通して一 教科・領域との関連を図っ 生活科・総合を基盤にして かった)』にする子ども-十月二十六日 の学習――」 て伝える力を高める国語科 **『**? (はてな)』を『! (わ 火 自主

○福岡小学校 十一月五日(金 からだ意識をもとにした 自主 ▼指導員合同訪問

○六ツ美中学校 ○葵中学校 業の中で、『導入・展開・ 整理』の各学習段階を充 足感・成就感を味わえる授 十一月二十四日 授業の創造―」 の育成―活用する力を育む を中心に―」 業を目指して~一時間の授 十一月十七日 「学習意欲を持続させ、 - 生き生きと学び合う生徒 (水 (水 市委嘱 自主 満

実・工夫して」

市委嘱

平成二十二年度学校訪問

◆岡崎市教育委員学校訪問 ·豊富小学校 甲山中学校 岩津小学校 福岡中学校 東海中学校 細川小学校 宮崎小学校 形埜小学校 矢作東小学校 根石小学校 広幡幼稚園 五月二十七日 十月二十一日 十一月二十五日 六月二十四日 一月二十七日 九月三十日 九月十六日 五月二十日 十月十四日 一月二十日 二月三日

※その他に主事訪問を予定し ·連尺小学校 十一月十八日 ▼県教育委員会訪問 南中学校 六ツ美中学校 六月十七日 矢作西小学校 六ツ美北部小学校 ている。 十一月十八日

十月七日

力をみがくハンドブック」 「若手教師のための 教師

ためのHANDBOOK』を精選 なって、平成二十年度指導員 したものである。 見直しし、明治図書より発刊 会が作成した『岡崎の教師の 本書は、指導員会が中心と

たい本である。 くの教師に手にとってもらい くまとめられている。 が、Q&A方式でわかりやす 教科領域の授業の進め方など 若手の教師のみならず、 授業や学級経営の基本、 多 各



カ

w

卜

福 圌

中 尾 崎 勇

司

様々な個性を持った子供たち一人一人の成長を願

になってきた。その鯉を見ていると、目の前にいる たが、今では暖色の緋鯉や子鯉も添えられ、華やか

わずにはいられない。

かい間見た思いがした。

然と泳ぐ。昔は男児の成長を願い、真鯉だけであっ

風に揺られながら、空にこいのぼりが悠

菖蒲の花が鮮やかになるころ、新緑の

相 撲 場 (昭和57年)

写真提供:竜美丘小学校

な 作られている。 倒れないようにする「うちころび方式」 本の四本の柱を内側に傾け、 岡崎には、屋根のある本格的な土俵は少 0 堂宮大工が作ったこの相撲場は、

屋根の重さで

基

現在も体育科の授業や「すもう週間」 や力士、 竜美場所」 朝潮関や高見山関、 昭和五十七年の土俵開きには、 床山など総勢二十名が来校した。 が開かれている。 富士桜関などの関取 高砂部!





う日本の国技である相撲。 め、相撲場を作る学校が多かったが、 尋常小学校の正課授業にも入った。そのた 心を磨き、 流れとともに取り壊されてきた。 技を学び、 体を鍛える」とい 昭和初期には、

ず。子供たちから、五月の風のようにさ すと新しい発見がいっぱいある。初心忘れるべから 告する。見なれた校内も、一年生の目を通して見直 学校探険から戻ってきた一年生が、目を輝かせて報 よ」「体育館はすごく広いから走り回っても大丈夫」。 わやかなエネルギーをもらう。 音楽室にはいろんな形の太鼓がいっぱいあった

学校の先生方。子供たち一人一人の笑顔を守るため 場所があるようにと、日々努力されている美合養護 に学校を卒業し地域に帰ったとき、彼らに確かな居 たちの感想の多くに、この言葉があった。十八の春 「明るい笑顔が印象的でした」。交流で訪れた子供 の一適正な就学」を、 私たちも心がけ

努めていきたい。

場でのぴんと張り詰めた一場面。 稽古に来るお弟子さんは、四歳から九十三歳と幅広 なやかな動きに、日本人の細やかさや奥ゆかしさを い。そのだれもが姿勢がよく、 の魅力と、寿女司先生の人柄に惹かれて 「好きこそものの上手なれ」。 礼儀正しい。稽古 扇や手ぬぐいのし 日本舞踊 外山滋比古

*忘却の整理学

筑摩書房

*上杉鷹山の経営学

PHP研究所

*自分の花を咲かせよう 真民・他 坂村 鈴木出版 ¥1,785

*甲子園の心を求めて 朝日新聞

道輔 佐藤 ¥1,260

¥1,260 冬二

¥450

*夫婦口論 三浦 朱門 曽野 綾子 育鵬社 ¥1.470

「教育はすべて強制から始まる」と鮮烈な 表現で、忘れかけていた日本の教育のよさ を語っている本である。「最初に強制され た型があるからこそどう解き放たれるかと いう自由がある」(曽野)、「強制されたもの の中で子供は自分なりの対応の仕方を身に つけていく」(三浦)。これらはすべて価値 あるものを自分にあったものにできるかを 議論している。そこには口で言うだけでは ない試行錯誤の努力の営みがある。まさに 「強制」という言葉は、「個性の発見」につ ながっていく。

> 六ツ美南部小 髙須 亮平